東光原 50

熊本大学附属図書館報 Kumamoto University Library Bulletin
TOKOGEN ISSN 0917-7604 http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/
March 2008

源氏物語千年の時

新しく寄託された「横井小楠関係文書」について
図書館ガイダンスの季節です
教員著書の紹介

源氏物語 千年の時

森 正人

今年2008年は源氏物語が世に現れてから1000年という節目に当たります。正確に言うと、ちょうど1000年前に源氏物語が文献に登場したのです。

事情を少し具体的に説明しましょう。寛弘５(1008)年９月11日、中宮彰子が一条天皇の皇子を出産しました。所は土御門殿(つちみかどどの)、彰子の父である藤原道長の邸宅です。左大臣道長にとっては待望の男児で、将来は皇太子となり、そして天皇の位を継ぐことが期待され、政権の基盤をいっそう強固なものとする慶事となりました。誕生に伴う儀式や祝賀の催しがうち続き、50日めは11月１日で、右大臣、内大臣をはじめ貴族達を招き、とりわけ盛大な祝いの宴が土御門殿で催されました。

これら一連のできごとは、一人の女性の手によって記録されています。紫式部日記です。日記とはいえ、個人的なものでなく、紫式部は彰子に仕える女房としてこの一大慶事を公的に書き残すという任務を帯びていたとみられます。

源氏物語のことは、その五十日(いか)の祝いの酒宴の席、身分の高い貴族達も酔い痴(し)れて、歌う者あり、几帳の布を引きちぎっては女房達に近づこうとする者あり、座もすっかり乱れた様子が活写されているところに、さりげなく挟み込まれています。

> 左衛門の督(かみ)、「あなかしこ、このわたりに若紫やさぶらふ」とうかがひ給ふ。源氏に似るべき人も見え給はぬに、かの上はまいていかでものし給はんと聞きゐたり。
> (左衛門の督藤原公任(きんとう)が、「恐縮ですが、この辺に若紫はおられるか」とお覗きになる。光源氏に似ているような人もいらっしゃらないのに、ましてどうしてそういう方がいらっしゃるだろうか」と、私は聞いていた。)

一瞬喧噪が遠のき、ここだけしんとした空気が包む、そういう場面です。藤原公任という人は、家柄もよく、地位も高く、和漢の学才にすぐれ、当時第一級の文化人でした。それほどの人から「あの若紫の物語を書いた作者はいらっしゃるか」と声をかけられるのは、並一通りでなく晴れがましいことのはずです。たとえば清少納言なら、きっと気の利いた言葉を返したにちがいありません。その場ではただおし黙って聞いていた、しかしこのように記述することによって内心の反撥を隠そうとしないところには、控えめであっても自ら恃(たの)むところの多い人柄がうかがわれて、源氏物語の作者ならではという感を深くします。

この記事によって、源氏物語がたしかに紫式部の作であること、この頃は若紫の巻はもちろん、少なくとも、若紫の巻で見いだされた十歳ほどの少女が、紫の上として光源氏の正妻格となったあたり

までは書かれていたと推測されるわけです。

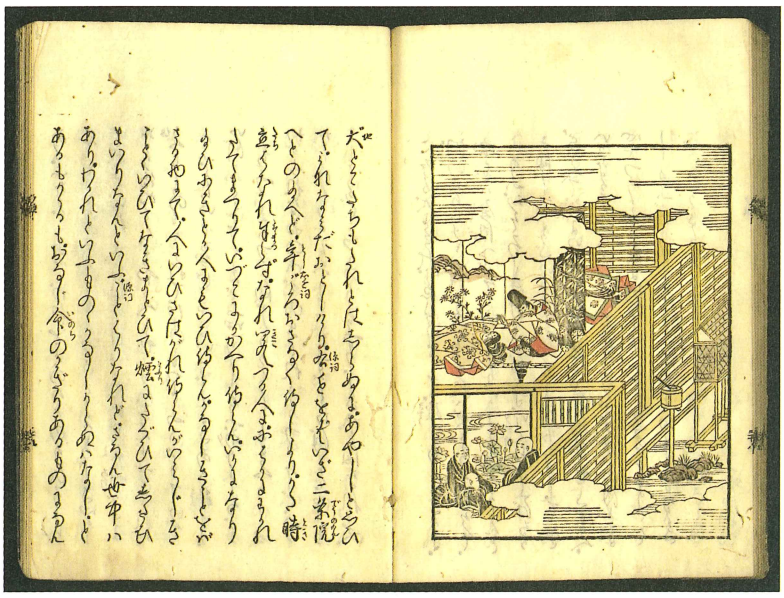
しかし、ここで、源氏物語は有名な古典には違いないけれども、1000年も前の作品ではないか、むずかしい古文で書かれているし、それが現代の私たちに何の関係があるのか、という言葉が返ってきそうです。文章と言い、長さと言い、たしかに源氏物語を読むのは容易ではありません。難解であると感じるのは、実は現代人だけではなかったのです。早くも平安時代末には注釈が書かれ、以来注釈書を始め、批評、系図、年表、梗概書（ダイジェスト）などが多数著されて今日に及んでいます。

1000年前に源氏物語が書かれたということは、日本文学史上の大きなできごとですが、それに劣らず、否それにもまして、それぞれの時代の多くの読者が読み継いできたということが重要だと私は考えています。読み、調べ、考え、味わうという行為もまた文学的な営みだからです。源氏物語は、時代が降るにつれて読者を拡大してきているのです。そして、今や海外にも。

源氏物語はそれ自体が読まれただけでなく、次代の作家たちの創作意欲を喚起し、次々とその影響下に新しい物語を生み出しました。狭衣物語、寝覚物語、浜松中納言物語、等々。また、源氏物語の方法や文体を借りて歴史を記述する栄花物語のような作品も出現しています。それにとどまらず、源氏物語はジャンルを超えて影響を及ぼしました。すなわち、藤原定家、藤原良経など鎌倉時代以降の歌人達は、源氏物語の場面をふまえ、物語中の和歌を取り込み、用いられている言葉を引用して、批評性と含蓄に富む新しい和歌を詠むようになりました。そうした創作方法は、連歌にも引き継がれ、源氏物語は文学に携わる人々が共有する文化の源泉となりました。注釈書や梗概書は、こうした人々に利用されたのでした。

源氏物語の世界は、室町時代に大成した能にも取り入れられました。「葵上」「夕顔」「浮舟」「玉葛」「野宮」など、登場人物や物語の舞台となった場所を曲名として、これらの題を聞いただけで、源氏物語の世界を想起できる作品が作られ、今日もよく上演されます。このほかに逸することのできないのが、徳川黎明会蔵、五島美術館蔵の「源氏物語絵巻」（国宝）を始めとする源氏物語絵の数々です。

このように思いつくままに拾い上げるだけでも、源氏物語が日本文化のさまざまの領域に及んでいることが分かります。源氏物語そのものもさることながら、1000年にわたってこれを享受してきた人々の営為、それを通じて生み出された文化の深さと広さに思いを致さずにはいられません。源氏物語とは、紫式部が作ったすぐれた物語であるとともに、それを享受しつづけてきた歴史の総体でもあるといえましょう。



源氏物語丹緑本（部分）

こうした考え方に沿って、附属図書館恒例の貴重資料展に、平成20年度は源氏物語とその関連資料を展示することを企画しました。附属図書館には、熊本藩主であった細川家の蔵書と藩政史料を中核として形成された大コレクション永青文庫の資料が寄託されています。細川家の祖・藤孝（号は幽斎、

1534～1610年）の執筆、書写あるいは収集した書籍をはじめ、豊かな源氏物語関係資料が含まれています。これに、昨年本学が寄贈を受けた仲光（なかみつ）家文庫を含む附属図書館の資料、文学部日本語日本文学研究室所蔵の資料を加えて、展示を行います。

展示の最終日には、源氏物語に関する公開講演も行うことにします。

源氏物語原文を読むにはむずかしすぎて手が出ない方にも、また現代語訳を読むにも時間がないと言われる向きにも、日本文化の歴史の一端に触れていただく機会にしていただければ、と願っています。

もり　まさと　文学部教授

News

● 熊大生selectionを公開

図書館にあったらいいなと思う本を熊大生自身が推薦する“熊大生selection”で購入した本（今回は311冊）の貸出がいよいよはじまりました。新年度になればまた募集を開始しますので、ご協力をお願いします。これからの展開をお楽しみに。

● 「仲光家文庫」を寄贈

10月２日(火)、森鴎外の『阿部一族』に名の挙げられている旧熊本藩士であった仲光家に伝わる古文書および典籍類が、山下(旧姓仲光)一恵氏から寄贈されました。今後の歴史ならびに文学研究の進展に大いに寄与するものと思われます。

● ハーン顕彰講演会を開催

12月３日(月)にラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の業績を顕彰する講演会が中央館二階会議室で開催されました。

□ ハーンの異文化理解

講師：福澤　清　文学部教授

□ 附属図書館所蔵の「木下順二が丸山学に送った書簡」について

講師：西川盛雄　教育学部教授

● 松井文庫目録などを提供開始

▽ 旧熊本藩の城代家老、八代城主松井家に伝わる古文書類の内、冊子体文書について「松井文庫目録 一 」として公開しました。

▽ 熊本県立美術館との共同事業の成果を元に『阿蘇家文書』を公開しました。

▽ 旧制五高の校友会誌『龍南会雑誌』を熊本大学学術リポジトリに登録する作業を開始しました。

図書館ガイダンスの季節です

◇ 新入生・編入生のための図書館ガイダンス

図書館では毎年、４月の入学式直後に新入生・編入生を対象にした図書館ガイダンスを開催しています。内容は、図書館の基本的な利用法の紹介と館内ツアーです。

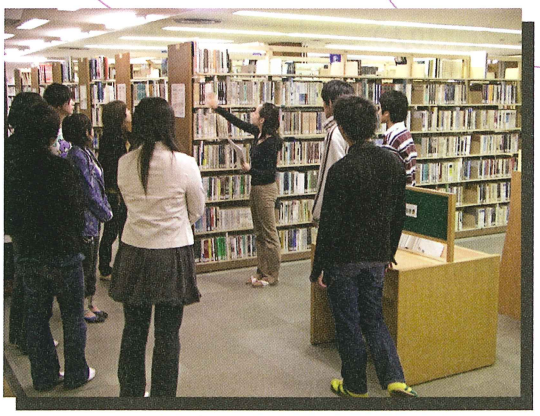
館内ツアーでは実際に館内を歩いて資料の配置を見たり、いろいろな図書館サービスを知ることができます。自動貸出機や電動書架の使い方なども実演を交えながら説明します。

今年も下記の要領で開催しますので、新入生・編入生の皆さん、ぜひご参加ください！

新入生・編入生のための 図書館ガイダンス

期　間：平成20年４月７日（月）～11日（金）、14日（月）～15日（火）
場　所：附属図書館中央館
時　間：①9:20～ ②10:30～ ③13:30～ ④15:00～ ⑤16:40～
（１日５回開催　各回30名　30～40分程度）
内　容：図書館の基本的な利用法の紹介＋館内ツアー

お申し込みは中央館カウンターへ



在学生を対象に、図書館では以下のガイダンスを予定しています。
卒論やレポート作成に役立ちますので、どうぞふるってご参加ください。
詳しくは図書館のホームページ、掲示板、メールなどでお知らせします。

◇ **春季図書館ガイダンス（5月下旬～6月初旬頃）　場所：中央館**
＜文献検索編＞　＜新聞記事検索編＞（予定）

◇ **秋季図書館ガイダンス（10月頃）　場所：中央館**

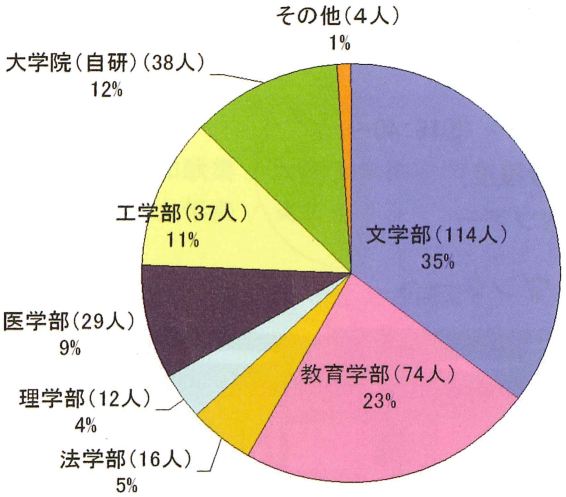
◇ **その他各種データベース利用説明会**

平成19年度図書館ガイダンス実施報告

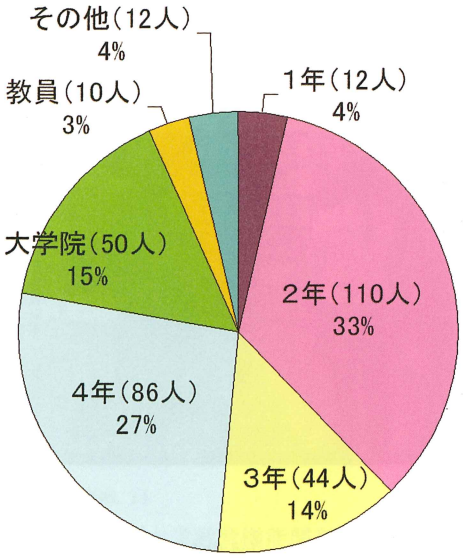
図書館主催のガイダンスとしては、４月に『新入生ガイダンス』を開催し、５月下旬からの『春季ガイダンス』では＜文献検索編＞と＜新聞記事検索編＞の２つのコース、そして10月下旬からの『秋季ガイダンス』では『春季ガイダンス』で人気が高かった＜文献検索編＞を開催しました。また、薬学部分館では４月に『図書館ガイダンス：薬学編』を開催しました。

中央館で実施した＜文献検索編＞の春季・秋季を合わせた学部別受講率と学年別受講率は以下のとおりです。（アンケート回収数による。）

＜文献検索編＞学部別受講率



＜文献検索編＞学年別受講率



授業と連携したガイダンスとしては、基礎セミナー「図書館活用法」を実施し、前後期合わせて約890名が受講しました。新入生の受講率は49.7%で、ほぼ半数が受講したことになります。さらに、法学系、工学系、医学系、保健学系のそれぞれで授業と連携したガイダンスを実施しました。

平成19年度図書館ガイダンス実施状況

図書館主催のガイダンス

項　目	対　象	期　間	回　数	参加人数	場　所
新入生ガイダンス	学部1年・編入生等	4月5日～4月13日 （平日7日間）	33回	457名 新入生の約26%	中央館
春季図書館ガイダンス ＜文献検索編＞＜新聞記事検索編＞	学部生、院生、 その他の学生	5月24日～6月6日 （平日10日間）	31回 文献 26回 新聞 5回	330名 文献 294名 新聞 36名	中央館
秋季図書館ガイダンス ＜文献検索編＞	学部生、院生、 その他の学生	10月29日～11月2日、 11月12日～16日 （平日10日間）	14回	56名	中央館
図書館ガイダンス：薬学編	薬学部4年生	4月11日	1回	30名	薬学部

授業と連携したガイダンス

項　目	対　象	期　間	回　数	参加人数	場　所
基礎セミナー図書館活用法（前期）	学部1年生	4月19,20,26,27日、 5月10,11日	15回	789名 （41クラス）	大教センター
基礎セミナー図書館活用法（後期）	学部1年生	10月18，19日	3回	99名 （10クラス）	大教センター
大学院医学実験講座：学術情報の探し方	医学系新院生	4月9日	1回	20名	医学部
法学系文献検索ガイダンス	法学部1年生	5月21日	1回	21名	中央館
法学系ガイダンス	法学部1年生	6月4日	1回	20名	中央館
保健学系文献検索ガイダンス	保健学科2年生	6月19日	2回	90名	医学部
工学系文献検索ガイダンス	工学部1年生	7月9日	1回	61名	工学部
工学部マテリアル工学科文献検索ガイダンス	工学部2年生	10月17日	1回	50名	総情センター

図書館主催のデータベース利用説明会

項　目	対　象	期　間	回　数	参加人数	場　所
SciFinder Scholar利用説明会：黒髪地区	教員・院生・学生	4月10日	1回	43名	工学部
SciFinder Scholar利用説明会：大江地区	教員・院生・学生	4月10日	1回	60名	薬学部
Scopus利用説明会：黒髪地区	教員・院生・学生	4月12日	1回	130名	工学部
Scopus利用説明会：大江地区	教員・院生・学生	4月12日	1回	90名	薬学部
Scopus利用説明会：黒髪地区	教員・院生・学生	1月29日	1回	31名	工学部
Scopus利用説明会：本荘地区	教員・院生・学生	1月29日	1回	39名	医学部
PsycINFO利用説明会	ID申請教員等	6月15日	1回	17名	中央館

利用相談担当

最近寄贈された本学教員の著書

－中央館の本学教員著作物コーナーをご覧ください－

上西川原章（名誉教授）
友は機銃掃射に斃れた ： 13歳の体験を背負って生きる / 東京 鳥影社 2006.12

首藤基澄（名誉教授）
魄飛雨 ： 首藤基澄句集 / 東京 北溟社 2007.1

工藤敬一・金原理（名誉教授）**・森正人**（文学部）
東アジアの文化構造 / 福岡 九州大学出版会 1997.3

北野隆（名誉教授）
熊本県の民家資料集 / 熊本 北野隆 2006.3

小野友道（名誉教授）
五足の靴の旅ものがたり / 熊本 熊本日日新聞情報文化センター, 2007,11

森正人（文学部）
文学史の古今和歌集 / 大阪 和泉書院 2007.7
新版日本文学大年表 / 東京 おうふう 2002.9

大熊薫（文学部）
ヴェルレーヌ ： 「聖」と「俗」との狭間で / 東京 早美出版社 2007.3

高橋隆雄（文学部）
日本の生命倫理 ： 回顧と展望 / 福岡 九州大学出版会 2007.5

甲元眞之（文学部）
環東中国海沿岸地域の先史文化１－５ / 佐倉 国立歴史民俗博物館内春成研究室 1999.3：熊本 熊本大学考古学研究室 2000.2

寺田光徳・松浦雄介（文学部）
L'acculturation dans les epoques d'internationalisation ,sous la direction de Mitsunori Terada / Ogata insatsu 2007.2

坂田正治（文学部）
バラードの競演 ： ゲーテ対シラー / 福岡 九州大学出版会 2007.10

岡部勉（文学部）
合理的とはどういうことか ： 愚かさと弱さの哲学 / 東京 講談社 2007.5

堀畑正臣（教育学部）
古記録資料の国語学的研究 / 大阪 清文堂 2007.2

西川盛雄（教育学部）
「異界」を創造する ： 英米文学におけるジャンルの変奏 / 東京 英宝社 2006.11

島谷浩（教育学部）
21世紀の英語科教育 / 東京 開隆館出版販売 2007.4

八幡（谷口）彩子（教育学部）
若手研究者が読む『家政学原論』2006 / 東京 家政教育社 2006.3

緒方明（教育学部）
家族手鏡 ： ファミリーCMと家族療法 / 東京 日本評論社 1991.11
ミキハウス症候群 / 東京 宝島社 1993.6
御三家に学ぶ「お茶の間」の健康 ： 磯野家、さくら家、野原家 ホームコミック / 東京 法研 1993.9
アダルトチルドレンと共依存 / 東京 誠信書房 1996.10

中村直美（法学部）
パターナリズムの研究 / 東京 成文堂 2007.3

岩岡中正（法学部）**・首藤基澄**（名誉教授）
新くまもと歳時記 / 熊本日日新聞社 2007.5

山中進（大学院社会文化科学研究科）
山間地集落の維持と再生 / 東京 成文堂 2007.3

中川義朗（大学院法曹養成研究科）
地方分権と政策 / 東京 成文堂 2007.2

伊藤龍一（工学部）
阿蘇神社建造物調査報告書 ： 一の神殿・二の神殿・三の神殿・楼門・神幸門・還御門 ： 阿蘇市指定有形文化財 / 阿蘇 阿蘇市教育委員会生涯学習課 ： 阿蘇神社 2006.11

折田充・高橋幸（大学教育機能開発総合研究センター）**・松葉龍一**（eラーニング推進機構）
ラーナーオートノミーを育てる英語教育改革 / 熊本 熊本大学 2007.3

吉田道雄（教育学部附属教育実践総合センター）
人生をよりよく生きるノウハウ探し ： 対人関係づくりの社会心理学 / 熊本日日新聞社 2007.11

柿本竜治（政策創造研究教育センター）
坪井川とともにくらす / 東京 成文堂 2007.3

シリーズ研究の周縁より

新しく寄託された「横井小楠関係文書」について

三 澤 純

1．「横井小楠関係文書」とは？

横井小楠（1809～1869）は、肥後藩士で、幕末維新期を代表する儒学者・政治家である。一般に、彼の存在は、第一に幕末の肥後藩内において実学党と呼称される思想・政治集団の中核となること、第二に越前藩主松平慶永（春嶽）に招聘され、同藩の藩政改革の主柱となること、第三に成立したばかりの明治新政府の参与に就任すること、という諸側面において、よく知られている。

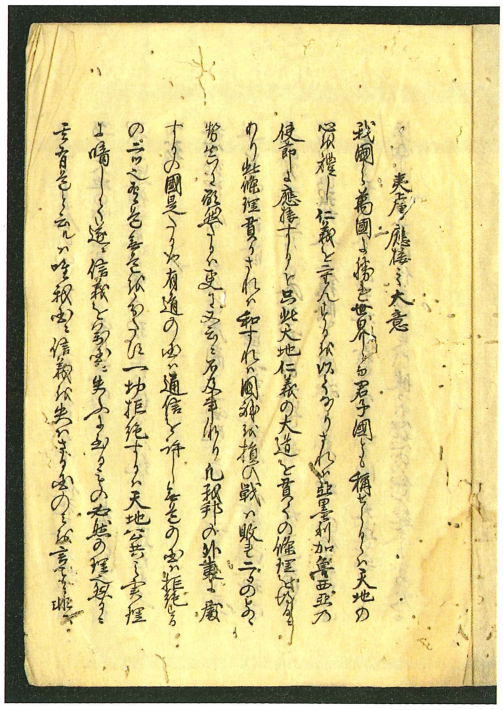
2007年11月に熊本大学に寄託された「横井小楠関係文書」は、横井小楠の曾孫横井和子氏（大阪教育大学名誉教授、兵庫県芦屋市在住）の所蔵にかかる全341点の古文書・古記録類（一部、写真等を含む）である。本史料の大元は、一時期、横井家の親戚柳瀬家に預けられていた史料群で、1999年夏に堤克彦氏によって仮目録の作成が行われている（その状況は、堤氏が「横井小楠をめぐる新書翰」〔『熊本近研会報』第356号、2001年１月〕で詳しく述べている）。その後、この史料群は、横井氏によって三つに分割され、いずれも小楠に縁の深い熊本市（熊本市立横井小楠記念館）・福井市（福井市立郷土歴史博物館）・京都市（京都市歴史資料館）に寄託された。今回、熊本大学に寄託されたものは、そのうちの熊本市分である。本史料が熊本大学に移された背景についてはここでは触れないが、私個人としては、本史料は当初の寄託先にあることが望ましいと考え、そうなるための努力をしてきたことだけを書き記しておきたい。ともあれ昨年11月26日に、横井和子氏が来学され、附属図書館地下の貴重書庫内における本史料の保管状況を実際にご覧になり、大いに安心されたことを喜びたい。

2．展示・公開の必要性

今後、熊本大学としては、本史料を専門研究者の閲覧に供するだけではなく、学生・院生、また広く市民の皆さんに対しても公開していかなければならないと考えている。その第一弾として、昨年11月、熊粋祭やホームカミングデーに合わせて、以下の二点の史料を紹介するミニ展示を行った。

A 「夷虜応接之大意」（嘉永６年、写本）

B 「熊本の家族宛横井小楠書翰」（慶応４年５月24 日付）



図版A 夷虜応接之大意（部分）

夷虜応接之大意

我国之万国に勝れ、世界ニ而君子国とも称せらるゝハ天地の心を体し仁義を重んするを以てなり。されハ亜墨利加・魯西亜の使節に応接するも只此天地仁義の大道を貫くの條理を得るニあり。此條理貫かされハ、和すれハ国体を損ひ戦ハ破れ、二ツのものゝ勢真ニ顕然たるハ更に又云ニ不及事なり。凡我国の外夷に処するの国是たるや、有道の国ハ通信を許し無道の国ハ拒絶するの二ツ也。有道無道を分たず一切拒絶するハ天地公共の実理に暗して、遂に信義を万国ニ失ふに至るもの必然の理也。然るニ其有道と云ルハ唯我国ニ信義を失ハさる国のミを言ことニ非ス

以下、二つの史料の概要を紹介しておきたい。

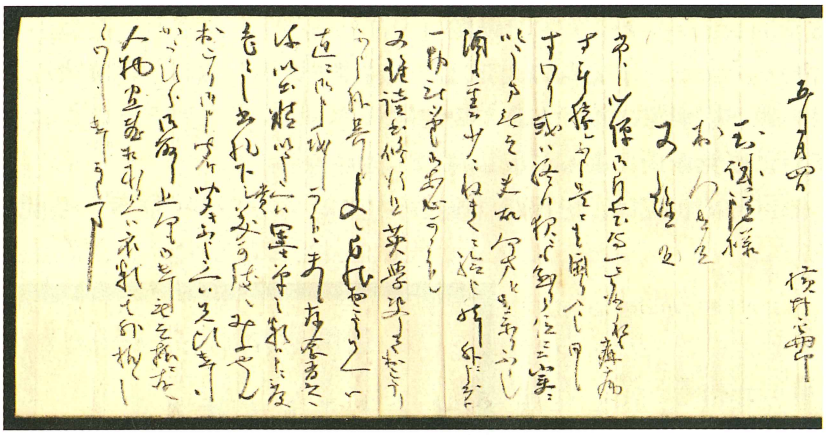
図版Ａは、嘉永６年６月３日（西暦では1853年７月８日）にアメリカ使節ペリーが浦賀へ、７月18日（西暦では８月22日）にロシア使節プチャーチンが長崎へ来航したことを踏まえ、横井小楠が、今後も増えていくであろう外国勢力との対応指針をまとめた「夷虜応接大意」の写本である。ここで展開される議論の主柱は、「有道の国は通信を許し、無道の国は拒絶する」（前ページの図版Ａの傍線部①）というものであった。すなわち日本に接触してくる外国勢力が「仁義を重んずる国＝有道の国」であれば国交を開き、「無道の国」であればその要求を拒絶するという意味である。これは、単に「鎖国」か「開国」かという論争に明け暮れていた当時の政治情勢においては、極めて冷静かつ現実的な献策であった。加えて小楠は、この指針を世界的な対外行動規範とすることを通じて、「天地公共の実理」（＝公平・平等な世界秩序。傍線部②）を構築しようとしていた。近年、人文・社会諸科学において「公共哲学」というキーワードがクローズアップされている中で、この「夷虜応接大意」は、国際的にも特に注目されている著作である。

図版Ｂは、明治新政府の参与という重職に就き、京都に移り住んだ小楠が、その直後に熊本の家族宛に書き送った書翰である。

この書翰で、小楠は、新政府内での自分の仕事場の様子を、事細かく、熊本の家族たち、即ち兄嫁の「至誠院」、妻の「つせ（津世）」、長男の「又雄」（後に牧師・政治家として活躍する横井時雄）に宛てて説明している。特に若き明治天皇（この時は満15歳）について詳しく記しており、彼が座る玉座の様子や彼の風貌に間近で接した感想を、感激一杯の筆致で伝えている。

また家族一人ひとりへの気遣いも忘れずに見せており、兄嫁には煙草入れを特注しているので楽しみに待っていて欲しいと書き送っている。またこの時、満10歳の又雄には、又雄が獲って送ってくれた川海老を食べた礼が記されている。この川海老は、おそらく熊本の自宅（現在の熊本市沼山津の四時軒）前を流れる秋津川で獲ったものを、つせが佃煮にして送ったのであろう。さらに又雄に対して、「読書修行且英学」を一生懸命にやれ

図版Ｂ　横井小楠書状（部分）



五月廿四日　横井平四郎

至誠院様

おつせ殿

又雄殿

尚々乍憚御自愛専一ニ奉存候。私も痢病寸斗勝レ不申、是に者困り入申候。日々すワり或ハ終日夜ニも懸り候位ニ而実ニいたし方無之候。夫故何方江も参り不申、酒も至而少々ねま（寝前）に給申候。然し外ニ申分ハ一切無御座、御安心可被下候。

①又雄読書修行且英学決しておこたり不申様呉々申入候。自然おこたり候ヘハ直ニ御申越し可被下候、夫々存念有之候。弥以出精いたし候ヘハ墨・筆之類ハ申ニ不及、色々之書物下シ賞美可致候。②みふやん（みや子のこと）おこり御申聞ケ、聞キ不申候ヘハ先頃遣し候かたひら御取り上何も御遣し無之様に存候。人物宜敷相成り候ヘハ衣類其外様々之くわし（菓子）遣し可申候事。

ば、「墨・筆はもちろん、ご褒美に色々な書物を贈ってやる」とか（図版Ｂの傍線部①）、当時満５歳の長女みや（後に海老名弾正の妻となる横井みや子）に対して、「母親の言うことを聞かなければ、先日贈った『かたびら』（単衣の夏服）は取り上げる。言うことをよく聞けば、新しい着物に加えてお菓子も贈ってやる」（傍線部②）と書いている箇所からは、幼子を熊本に残し、遠く離れた京都に「単身赴任」している父親の気持ちを十分に感じることができる。

今後は、本史料の確定版目録を作成することを目指して、再整理を行いつつ、その過程で得られた新しい知見を、附属図書館主催の貴重資料展等の機会を利用して展示・公開していきたいと考えている。

３．横井小楠の新全集刊行へ向けて

本史料の特徴は、横井小楠への来翰（諸氏が小楠へ書き送った手紙）と小楠の発翰（小楠が諸氏へ発した手紙。その控えも含む）がその中心となっていることである。現段階で横井小楠研究の基本資料とされている山崎正董編『横井小楠　遺稿編』には多くの小楠の発翰が収録されているが、来翰は一部の例外を除いて全く載せられていない。当然のことだが、書翰史料には往復双方の書翰を読んで、初めて理解される事柄が多いから、来翰の調査は、本格的な研究にとっては欠かせない作業となる。

例えば、『横井小楠　遺稿編』に収録されている澤田良蔵（尾張藩士）や岡田準介（越前藩士）に宛てた発翰から、小楠が、実際のペリー来航前に、それを知っていたことが分かっているが（特に、嘉永６年５月３日付の岡田準介宛書翰では、「近来は西洋之変動、其沙汰紛々とこれあり、定て夏中には浦賀へ参り申すべく候」と書いており、小楠が入手していた情報が時期・場所ともにかなり正確なものであったことを知ることができる）、そういう情報がどこから小楠のもとへもたらされたのかは全く闇の中であった。しかし今回の寄託史料中には、その情報源である可能性が高い来翰も含まれている。

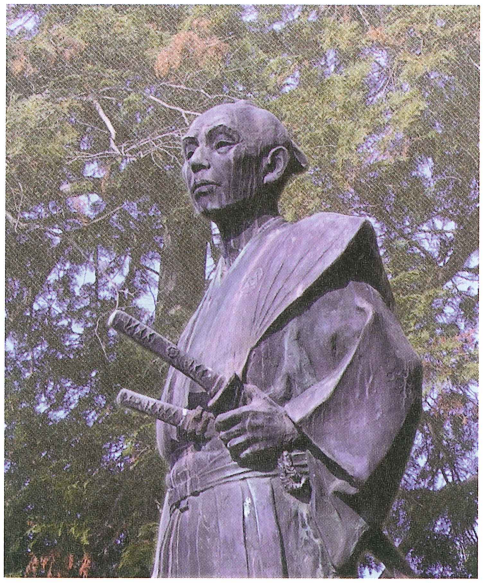
私の研究室に事務局を置いている全国横井小楠研究会では、現在、『横井小楠全遺稿集成』（仮称）を編纂中であるが、この新全集は、小楠への来翰をできるかぎり収集し、発翰との対応関係を明確にして、両者を一括して収録することを編集方針の目玉に掲げている。その意味で、今回の寄託措置が新全集編纂事業を大きく促進させる効果は非常に大きい。その意味で、今後、文学部日本史研究室が中心になって行う本史料の再整理作業は、極めて重要な意義を持っていることになる。

みさわ　じゅん　文学部准教授

史跡information

○ **横井小楠記念館・四時軒**
〒861-2102 熊本市沼山津１丁目25-91
TEL (096)368-6158
開館 9:30～16:30
休館 月曜(月曜休日の場合は火曜)・年末年始

○ **小楠公園**
〒861-2102 熊本市沼山津4-11



日誌（平成19年11月～平成20年２月）

10/2	「仲光家文庫」寄贈受入
10/29-11/2	第２回文献検索ガイダンス[1]
11/3	熊本大学ホームカミングデー
11/6-9	第27回西洋社会科学古典資料講習会（一橋大学）
11/8-9	第９回図書館総合展（横浜市）
11/9	第３回DRFワークショップ（横浜市）
11/12-16	第２回文献検索ガイダンス[2]
11/19	第７回附属図書館係長会議
11/29	九州地区国立大学附属図書館長・事務（部・課）長会議（九州大学）
12/3	ハーン顕彰講演会
12/21	第３回図書館運営委員会
1/7	「阿蘇家文書」提供開始
1/8	第８回附属図書館係長会議
1/19-20	大学入試センター試験
1/29	SCOPUS利用説明会
1/30-31	デジタルリポジトリ連合国際会議 DRFIC 2008（大阪大学）
2/4	国立大学図書館協会協会賞審査委員会（九州大学） 学術講演会「多様化する図書館活動」（九州大学）
2/5	「松井文庫目録」提供開始
2/15	目録システム/ILLシステム講習会担当者会議（国立情報学研究所）
2/19	第９回附属図書館係長会議
2/21	九州地区機関リポジトリ・ワークショップ（九州大学）
2/25-26	熊本大学個別学力検査

表紙の言葉

今年の貴重資料展のテーマは「源氏物語千年紀」です。

黒髪界隈拾遺

元治元年(1864)、京都三条木屋町の旅籠池田屋における新撰組と勤皇派浪士の戦い、いわゆる「池田屋事件」で落命した宮部鼎蔵の墓が黒髪キャンパスの北、小峯墓地にある。そのすぐ脇に、後年ラフカディオ・ハーン(1850-1904)も好んで訪れたという「鼻欠け地蔵」が静かに佇んでいる。両者の間には熊本を主戦場とした、おそらく我が国最後の内戦である「西南の役」(1877)が挟まっているのだが、その徴はここではなく、おなじ墓地内の少し離れた場所に建つ「丁丑感旧碑」に見るべきだろうか。

東光原：熊本大学附属図書館報
第50号　平成20年３月刊

発行　熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
Tel.096(342)2273 Fax.096(342)2210
編集　浦田博臣　岩岡仁美　笠　彩子
URL　http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/